

## 1 検証内容・検証方法

以下の検証内容について、実績の蓄積状況、次年度以降の影響等を勘案し、検討委員会のスケジュールを設定する。

### (1) 体験活動の系統性や発展性について

→令和4～6年度の各校の実施内容や実施予定内容を「自然体験活動」「よりよい人間関係を育む活動」「当該学年にふさわしい特色ある活動」の3つの観点から分類し、学年進行に合わせた系統性や発展性が担保されているかを検証する。

### (2) 授業時間の適切な配当について

→令和4～6年度の各校の実施計画を集約し、各教科、総合的な学習の時間、特別活動等の配当状況を確認・検証する。

### (3) 小・中連携について

→(1)の取組に加え、体験活動連携会議の実施方法について検討する。

### (4) 教師の働きかけについて

→各校における実際の教員や生活指導員の働きかけや生活指導員に対する指導について児童・生徒に配布するしおりの内容や各校へのヒアリングを基に検証する。

### (5) 評価について

→令和4～6年度の事前・事後アンケートのデータを集約し、セカンドスクールが児童・生徒に与える影響と、(1)(4)を中心に効果的なプログラムや教師の働きかけについて検証する。

### (6) 実施日数について

→(1)～(5)及び(7)の協議内容や各校の取組状況を基に、実施日数変更による成果と課題を検証する。

### (7) 生活指導員の確保について

→令和3年度以降の生活指導員の確保状況、児童・生徒との関わり、生活指導員から学校に寄せられた声等を集約し、今後の生活指導員の確保やあり方について検証する。

## 2 実施スケジュール案

第1回	令和6年2月	(1) 検討委員会の概要と方向性の確認 (2) 生活指導員の確保について①
第2回	令和6年3月	(1) 生活指導員の確保について② (2) 次年度の検証委員会の方向性確認
第3回	令和6年6月	(1) 体験活動の系統性や発展性について (2) 授業時間の適切な配当について (3) 教師の働きかけについて
第4回	令和6年9月	(1) 小・中の連携について
第5回	令和6年11月	(1) 評価について (2) 実施日数について
第6回	令和6年12月	(1) 報告内容の確認について (2) 持続可能な長期宿泊体験活動のあり方について